

1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
13  
14  
15

福島県総合計画改定素案たたき台

## 第 4 章

# 地域別の基本方向・主要施策

# 1 地域別の基本方向

## (1) 地域づくりに当たっての考え方

本県は全国第3位の広大な県土に、多様な気候風土、伝統文化、歴史が息づいており、それぞれの地域でその特性を生かした地域づくりが進められてきました。

しかし、東日本大震災や東京電力福島第一原子力発電所事故の発生により、多くの県民が避難生活を余儀なくされ、農林水産業を始めとする地域産業や地域資源も甚大な被害を被るなど、本県における地域づくりは苦境に立たされています。

ただ、これら災害を契機として、私たちはあらためて自分たちが暮らしてきた地域のすばらしさ、地域コミュニティの重要性を再認識しました。今後の地域づくりにおいては、幾多の困難が予想されますが、住民一人ひとりがそれぞれの地域の持つ魅力や住民間の絆を強く認識することによって、地域に対する自信や誇りを取り戻し、地域再生のために今、何ができるのか、何が必要なのかを考え、実行していくことが必要です。

そして、住民・行政・民間団体・企業などあらゆる主体が一体となって、それぞれが果たすべき役割を認識し、連携・協力していくことこそが、本県の復興、さらには新たな地域づくりへの第一歩となり、人と地域が震災前以上に輝きを放つ「新生ふくしまの創造」につながっていくものと考えられます。

## (2) 七つの生活圏に基づいた地域づくり

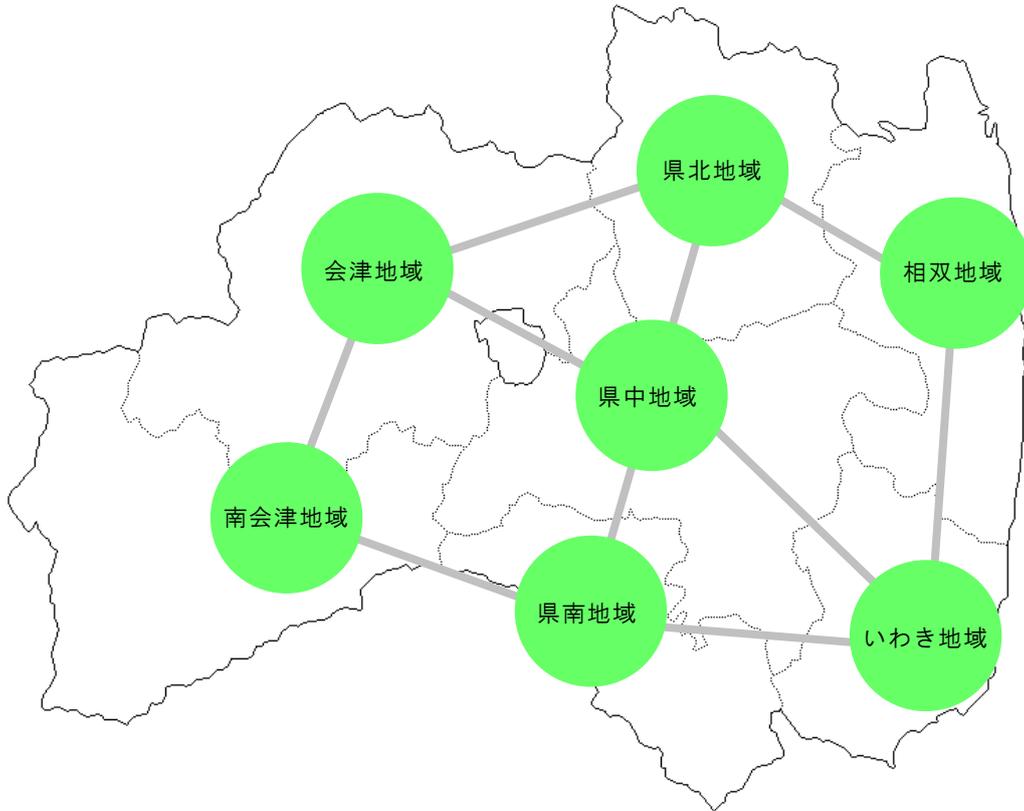
本県では、地理的な条件や歴史的・文化的に関連の強い、一定のまとまりを持ち、日常生活の面でも相互依存関係が深く一体性が高い地域を1つの生活圏と捉えています。今後、交通体系、情報通信基盤の整備などにより、県民の日常生活の範囲はますます広域化、重層化することが予想されます。

一方で、東京電力福島第一原子力発電所事故に伴い、長期的に帰還が困難な区域が生じたことから、生活圏の区域が分断される事態も想定されます。

このようなことから、今後、生活圏の範囲が変化したり、他の生活圏との関連が強まることも考えられますが、それぞれの生活圏における地域特性を尊重し、当面はこれまでどおりの「七つの生活圏」を基本に地域づくりを進めていきます。

1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
13  
14  
15  
16  
17  
18  
19  
20  
21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30  
31  
32  
33

●七つの生活圏



(3) 生活圏を越えた機能の補完・連携

交通体系や情報通信基盤の整備などにより、県民の日常生活の範囲は広域化の一途を辿っていますが、一方で、それぞれの生活圏の一部においては、依然として十分な都市的サービスの享受が困難な状況も見受けられます、そのため、七つの生活圏を基本としながらも、生活圏相互の重層的なかかわりにも着目しつつ、七つの生活圏それぞれを自己完結的に捉えるのではなく、生活圏を越えた機能の補完・連携の視点を持ちながら、県民の生活実態に対応した生活圏づくりを進めていきます。

また、東日本大震災においては、浜通り地方において、生活圏を越えた広範囲での被害が生じ、避難先も中通り地方や会津地方にまで及んだことなどから、とりわけ、浜通り地方と中通り地方、中通り地方と会津地方、浜通り地方と会津地方といった「横軸」による連携・補完が求められています。

1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
13  
14  
15

#### (4) 近隣地域との広域連携

交通体系や情報通信基盤の整備などに伴い、生活圏や県域を越えた人やモノの交流、連携が進んでおり、特に本県は、東北圏と首都圏との結節点に位置するという優位な地理的条件を備えていることから、このような交流、連携は今後さらに活発化することが見込まれます。

また、東日本大震災のような広域にわたる災害が発生した場合には、生活圏や県域をも越えた交流、連携が不可欠になります。

以上のような状況を踏まえ、今後はさまざまな分野において、県内の地域にとどまらず、県外の地域とも交流、連携する広域的な視点が大切になってきます。

そのため、県内外の近隣地域と連携・協力し、多様化・複合化する地域課題に対応した活力ある地域づくりを進めていきます。

## 2 地域別の主要施策

本章においては、前章で記載した全県的に推進する「政策分野別の主要施策」のほかに、七つの生活圏、それぞれの観点から各地域で推進する施策を「地域別の主要施策」として示します。

### ●地域別の主要施策の構成

#### 地域の概要

人口、産業構造などの主なデータや自然的・社会的特性、発展可能性などについて記載しています。

#### 課題と施策の 展開方向

現状や特性を踏まえ、それぞれの地域の課題を抽出しています。また、それぞれの地域で進める施策の大きな方向性を、地域住民や市町村の意見も聴きながら示しています。

#### 主要施策

第〇章「政策分野別の主要施策」に掲げる施策を踏まえ、それぞれの地域が掲げる施策の展開方向に沿って、今後8年間に進める特徴的、即地的な施策を限定して掲げています。

なお、ここに記載されていない施策についても、「政策分野別の主要施策」に基づき、それぞれの地域の実情に合わせて展開していきます。

また、ここに掲げた主要施策については、すべてを県が自ら行うということではなく、施策によっては、県と地域の住民や市町村などが連携・協力しながら進めるものや、地域の住民や市町村などの主体的な取組みを県が支援・協力するものも含まれています。

### ●統計データについて

#### 面積

国土交通省国土地理院  
「全国都道府県市区町村別面積調」  
[調査時点：平成〇〇年〇〇月〇〇日]

#### 人口<sup>※1</sup>・世帯数

福島県統計課  
「福島県の推計人口（福島県現住人口調査月報）」  
[調査時点：平成〇〇年〇〇月〇〇日]

#### 就業人口<sup>※2</sup>

総務省統計局  
「国勢調査報告」  
[調査時点：平成〇〇年〇〇月〇〇日]

#### 産業別総生産<sup>※3</sup>

福島県統計課  
「福島県市町村民所得推計」  
[調査時点：平成〇〇年度]

※1 人口は年齢不詳があるため、年齢別人口の計と一致しません。

※2 就業人口は分類不能を含むため、産業別就業人口の計と一致しません。

※3 総生産は帰属利子などを控除しているため、産業別総生産の計と一致しません。

# 1

## 県北地域

### (1) 地域の概要



#### 【地域の特徴】

- ・ 県北地域は、福島県の北部に位置し、西に吾妻・安達太良連峰、東に阿武隈高地を擁し、中心部を阿武隈川が流れています。本県の政治・行政、教育・文化、医療などの中心的役割を担う高次都市機能が集積した地域です。
- ・ 情報通信、電気機械関連産業などの製造業が集積し、県内製造品出荷額の約〇%を占め、県中地域と並んで本県の工業を牽引する地域となっています。
- ・ 農業面では、県内最大の生産額を誇る果樹や野菜などを中心とする北部、稲作が中心の南部、畜産等が盛んな中山間地域に分けられます。
- ・ 新幹線や高速道路などの高速交通体系の整備が進んでおり、首都圏と東北、太平洋側と日本海側の結節点として重要な役割が期待されています。
- ・ また、東京電力福島第一原子力発電所事故による放射性物質汚染により、一部の地域に計画的避難区域や特定避難勧奨地点が設定され、住民の帰還に向けた環境回復の取組が必要とされています。

#### ○地勢など

- ・ 面積
- ・ 世帯数（震災前後比較）
- ・ 人口・年齢別人口（震災前後比較）
- ・ 就業人口、産業別就業人口（震災前のみ）
- ・ 地域内総生産、産業別総生産の構成（震災前のみ）

(地域の写真など)

(グラフなど)

## (2) 課題と施策の展開方向



### 【課題①】安全・安心な生活環境の確保

- 生活圏や農地などの除染を進め、計画的に放射線量を低減させ、生活環境を回復することが求められています。
- 住民は放射線に対する不安を抱えた生活を強いられ、なかでも子どもの心身の健全な発達を促すための活動が十分にできない状況にあります。
- 避難生活を余儀なくされている住民の生活環境等の向上や、ふるさととの絆の維持が課題となっています。



はじめよう。誰もが安心して生き生きと暮らせる生活圏の形成



### 【課題②】人口減少社会を見据えた地域の維持・活性化

- 人口流出や少子高齢化の進行により地域活力が低下するとともに、地域を担う人材等が不足しています。
- 東日本大震災以降、低迷が続く交流人口の回復に向けた取組みとともに、訪れる人々との多様な交流を通じた地域の活性化が求められています。



はじめよう。地域を支える人づくり、多彩な交流の促進による地域の活性化



### 【課題③】原子力災害の克服と地域の特色を生かした産業の振興

- 原子力災害により、産業全般にわたり風評被害が発生し、その払しょくが課題となっています。
- 農林・畜産業における食の安全性確保や生産者の意欲の維持とともに、担い手の育成、収益性の高い経営・生産方式の導入、高付加価値化が求められています。
- 県立医科大学の研究拠点化に応じた医療関連産業の集積など、高次都市機能を生かした新たな需要が期待できる産業の創出・誘致が求められています。
- 産学官連携による基盤的製造技術の高度化や、より専門的な技術・知識を有する産業人材の育成が求められています。



はじめよう。地域産業の再生と新たな社会を拓く活力ある産業の創出



### 【課題④】持続可能な生活を支える社会基盤の充実

- 保健医療・福祉体制の充実と連携の強化、交通弱者に配慮した生活交通の確保が求められています。
- 浜通りの復興支援に向け、東西連携道路等の道路ネットワーク整備が求められています。
- 住民生活に必要なとされるインフラ・施設等が一体化された「災害に強いまちづくり」が求められています。



はじめよう。災害に強く、安全で安心な生活を支える基盤の整備



ー 以下については、現在、各振興局にて作成中 ー

### (3) 主要施策

#### 施策①

#### 誰もが安心して生き生きと暮らせる生活圏の形成

##### 【主な取組】

- . . . . .
- . . . . .
- . . . . .
- . . . . .
- . . . . .
- . . . . .
- . . . . .
- . . . . .
- . . . . .
- . . . . .
- . . . . .

#### 施策②

#### 地域を支える人づくり、多彩な交流の促進による地域の活性化

##### 【主な取組】

- . . . . .
- . . . . .
- . . . . .
- . . . . .
- . . . . .
- . . . . .
- . . . . .
- . . . . .
- . . . . .
- . . . . .
- . . . . .
- . . . . .
- . . . . .

1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
13  
14  
15  
16  
17  
18  
19  
20  
21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30  
31  
32  
33

**施策③ 地域産業の再生と新たな社会を拓く活力ある産業の創出**

**【主な取組】**

- . . . . .
- . . . . .
- . . . . .
- . . . . .
- . . . . .
- . . . . .

**施策④ 災害に強く、安全で安心な生活を支える基盤の整備**

**【主な取組】**

- . . . . .
- . . . . .
- . . . . .
- . . . . .
- . . . . .
- . . . . .
- . . . . .
- . . . . .



# 2

## 県中地域

### (1) 地域の概要



#### 【地域の特徴】

- ・ 県中地域は、福島県の中央部に位置し、阿武隈川流域に広がる安積平野や猪苗代湖、阿武隈高地を擁しており、本県経済の中心的役割を担う地域です。
- ・ 工業面では、県内製造品出荷額の約〇%、年間商品販売額の約〇%を占めており、今後も、本県の経済をリードしていくことが期待されています。
- ・ 農業面では、米・野菜・畜産が中心であり、本県生産額の約〇%を占めています。
- ・ 新幹線などの鉄道網、高速道路などの道路網によって、首都圏、北陸地方、東北地方を結ぶ東西南北の結節点となっているほか、本県における空の玄関口として福島空港が整備されています。

#### ○地勢など

- ・ 面積
- ・ 世帯数（震災前後比較）
- ・ 人口・年齢別人口（震災前後比較）
- ・ 就業人口、産業別就業人口（震災前のみ）
- ・ 地域内総生産、産業別総生産の構成（震災前のみ）

#### (地域の写真など)

#### (グラフなど)

## (2) 課題と施策の展開方向



### 【課題①】安全で安心して暮らせる社会、避難者等への支援

- 被災地域等からの避難者の受入により、本地域における保健・医療・福祉の需要が高まっていることから、体制の一層の強化が求められています。
- 避難者の生活再建への支援と帰還に向けた取組みの促進が課題となっています。
- 生活交通の確保とともに、東日本大震災を踏まえた「浜～中通り」間の交通基盤等の充実が課題となっています。
- 地震、水害等に強いまちづくりの整備が必要です。
- 原子力災害による人口流出や、東日本大震災による空き地・空き店舗の増加により中心市街地の活力低下がさらに進んでいるため、その防止が課題となっています。
- 原子力災害に伴う自然環境汚染と生活環境汚染への対応が課題となっています。
- 放射線に対する健康不安から、屋外活動の自粛等で子どもの心身の健全な発達に影響を与えることが危惧されているとともに、食品の安全を求める意識が一層高まっており、その対策が急務となっています。



はじめよう。震災・原子力災害の克服、安全で安心して暮らせる地域社会の形成



### 【課題②】産業の集積・高度化

- 再生可能エネルギーなどの高度技術産業を中核とした産業集積の推進が課題となっています。
- 交通の要衝としての優位性を生かしたさらなる産業の集積と、それに伴う物流機能の強化が課題となっています。
- 農業分野において、特色ある産地形成や収益性の高い農業経営体の育成が課題となっています。
- 原子力災害により、農地や森林等の除染、農林水産物への風評被害の払拭が急務となっています。
- 原子力災害等により、本地域が有していた人材や立地環境面での優位性が損なわれ、受注の低迷や人材の流出が顕在化していることから、その回復が課題となっています。
- 原子力災害に伴う若い世代の流出の防止と県内への還流促進のため、多様な就業機会の確保が課題となっています。



はじめよう。未来を拓き、地域の活力を支える産業の集積と高度化の推進



### 【課題③】観光の復興と広域交流の拡大

- 防災拠点としての重要性が再認識された福島空港の国際定期路線の早期再開が課題となっています。
- 原子力災害に伴う風評等により、地域間交流や観光誘客等が低迷しており、その回復が課題となっています。



はじめよう。風評の払拭と観光の推進、地域資源の活用による交流人口の拡大



### 【課題④】過疎・中山間地域の活性化

- 過疎・中山間地域において地域活力が低下しており、地域の魅力向上が課題となっています。
- 地域コミュニティの維持・存続が危ぶまれる地域が発生しており、再生・活性化への支援が必要です。
- 生活交通や情報通信など、地域における生活基盤の維持・改善が求められています。
- 多様な農林水産物の生産拡大や担い手の育成・確保が課題となっています。



はじめよう。生活基盤の充実と「地域の宝」を生かした過疎・中山間地域の振興

1  
2  
3  
4



### 【課題⑤】豊かな自然環境と地域社会との調和

- 生態系に配慮した河川等の整備や、環境と共生する農業の推進が求められています。
- 森林の荒廃が危惧されており、森林環境の保全・管理が課題となっています。
- 原子力災害に伴う自然環境汚染と生活環境汚染への対応が課題となっています [再掲]。

5  
6  
7  
8  
9



**はじめよう 豊かな自然環境と調和のとれた地域社会の形成**

10

1

2

# 3

## 県南地域

### (1) 地域の概要



#### 【地域の特徴】

- ・ 県南地域は、福島県の南部に位置しており、阿武隈川、久慈川などの源流を有するとともに、夏は比較的冷涼で冬は降雪量が少ないなど、美しく豊かな自然と恵まれた地域です。
- ・ 白河の関、白河小峰城や棚倉城趾、日本最古の公園と言われる南湖公園や日本三大提灯まつりに数えられる白河提灯まつりなど、歴史的文化遺産や個性的な伝統文化が数多く残されています。
- ・ 首都圏と隣接し、東北新幹線、東北自動車道の高速交通網や福島空港とのアクセス性などの優位的条件から、製造業を中心とした企業が立地し、半導体関連産業、輸送用機器関連産業などが集積しています。
- ・ 農業面では、自然条件を生かした野菜、花きなどの生産が盛んであるとともに、スギを中心とした県内有数の林業地帯でもあり、良質な素材の供給が行われております。

#### ○地勢など

- ・ 面積
- ・ 世帯数（震災前後比較）
- ・ 人口・年齢別人口（震災前後比較）
- ・ 就業人口、産業別就業人口（震災前のみ）
- ・ 地域内総生産、産業別総生産の構成（震災前のみ）

(地域の写真など)

(グラフなど)

## (2) 課題と施策の展開方向



### 【課題①】首都圏と隣接する特性を生かした産業の振興

- 県全体の復興牽引を下支えするため、さらなる企業の集積が求められています。
- 産業全般にわたって原子力災害の影響が及んでおり、いかに払拭していくかが大きな課題となっています。



### はじめよう 新たな時代を牽引する地域産業の振興



### 【課題②】地域の担い手や産業人材の育成

- 過疎・中山間地域を中心として、特に若い世代の県外転出が多く、地域コミュニティを担う人材不足が懸念されています。
- 農林業や商業の担い手不足の深刻化と企業の要望に応えられる質の高い産業人材の育成が課題となっています。



### はじめよう 地域の持続可能な発展を担う人づくり



### 【課題③】観光・都市交流の復興と促進

- 原子力災害の影響により、観光客が減少し、定住・二地域居住等の都市交流が低迷しています。
- 風評被害の払拭、新たな魅力づくりや情報発信、さらなる幹線道路の整備が求められています。



### はじめよう 地域資源を生かした交流の促進



### 【課題④】源流の里にふさわしい環境の回復と安全・安心の確保

- 原子力災害により、豊かな自然環境と良好な生活環境が損なわれるとともに、放射線に対する不安が生じています。
- 安全・安心を確保するための社会基盤や医療体制の整備が不十分な状況にあります。



### はじめよう 人々がいきいきと心豊かに暮らせる安全で安心な源流の里づくり

# 4

## 会津地域

### (1) 地域の概要



#### 【地域の特徴】

- ・会津地域は、福島県の北西部に位置し、磐梯山や猪苗代湖等をはじめとする美しい自然に囲まれています。また、全国的に名高い歴史、文化を有していることから、本県の観光・リゾートの中心的地域となっています。
- ・会津若松市を中心に電子部品製造、機械加工業などが集積しているほか、清酒、味噌、漆器といった伝統的な産業が立地しています。
- ・中央平坦部では稲作中心の農業が行われており、山間部は、過疎化・高齢化が進むとともに、豪雪地帯となっていますが、豊富な雪解け水を利用した水力発電所や地熱発電所が立地しています。また、今後は地域特性を生かした小水力発電や木質バイオマスエネルギーの推進地域としても期待されています。
- ・鉄道及び高速道路によって、太平洋側、日本海側と結ばれており、第3セクターの会津鉄道等によって、首都圏とも直結しています。

#### ○地勢など

- ・面積
- ・世帯数（震災前後比較）
- ・人口・年齢別人口（震災前後比較）
- ・就業人口、産業別就業人口（震災前のみ）
- ・地域内総生産、産業別総生産の構成（震災前のみ）

(地域の写真など)

(グラフなど)

## (2) 課題と施策の展開方向



### 【課題①】地域経済の活性化

- 産業集積の形成が不十分であり、集積を促す必要があります。
- 伝統産業が低迷していることから、保護が必要です。
- 原子力災害に伴い、風評被害が発生しています。



### 地域経済を支える産業の整備・推進



### 【課題②】交流人口と地域の活性化

- 震災で交流人口が低迷しているほか、原子力災害による放射線への不安から、観光客も減少しています。
- 災害時を見据えた、高速交通体系へのアクセス網や幹線道路の整備が求められています。
- 人口減少・高齢化の急速な進行に伴い、地域活力が低下しています。
- 過疎・中山間地域を中心に、医療体制の確保が困難となっています。



### 交流人口の拡大と地域の活性化



### 【課題③】災害対策、安全・安心の確保

- 平成23年に発生した新潟・福島豪雨により、道路や河川、鉄道などが甚大な被害を受け、あらためて大規模災害等に強い社会基盤の整備が求められています。
- 冬期間の除雪及び道路ネットワークの構築が課題となっています。
- 原子力災害に伴い、放射線に対する健康不安が生じています。



### 災害対策、安全・安心の確保



### 【課題④】自然環境、景観の保全・継承・活用

- 森林環境、水環境の継続的な保全が必要であることに加え、原子力災害に伴う自然環境汚染と生活環境汚染への対応が課題となっています。
- 歴史や文化と調和した景観の継続的な保全や、地域に根ざした伝統・文化の継承が課題となっています。



### 自然環境、景観の保全・継承・活用



### 【課題⑤】農林業振興

- 食料供給地域としての役割が求められる一方、原子力災害に伴う風評被害により、地域ブランド価値が低下しています。
- 農村風景、地域文化と融合した農林水産業の推進が期待されているほか、農商工連携や地域産業6次化の推進も求められています。
- 地域特性を生かした再生可能エネルギー（木質バイオマスエネルギー等）の利用推進が期待されており、木質バイオマスの需要に対応した供給体制の整備（森林資源の利活用）などが求められています。



### 自然環境、景観の保全・継承・活用

# 5 南会津地域

## (1) 地域の概要



### 【地域の特徴】

- ・南会津地域は、福島県の南西部に位置し、阿賀川流域の東部地域と只見川・伊南川流域の西部地域に大別されています。
- ・平成 22 年の国勢調査によると、人口の減少率は 9.2%と、県全体の 3.0%を大きく上回り、高齢化率も 36.9%と、県全体の 25.0%を上回るなど、県内で最も過疎・高齢化が進行している地域です。
- ・全国屈指の豪雪地帯であり、只見川を中心に豊富な雪解け水を利用した水力発電所が立地しています。
- ・尾瀬や広大なブナ原生林などの雄大な自然環境に加え、会津田島祇園祭や檜枝岐歌舞伎などの伝統文化、大内宿や前沢曲家集落に代表される歴史的景観、スキー場などの多様な観光資源やトマトなどの高冷地の特性を生かして栽培された農林資源にも恵まれています。これらの地域資源と結びついた観光関連産業が農林業とともに主要な産業となっています。
- ・会津線などによって、首都圏と直結しているほか、只見線により新潟県と結ばれています。

### ○地勢など

- ・面積
- ・世帯数（震災前後比較）
- ・人口・年齢別人口（震災前後比較）
- ・就業人口、産業別就業人口（震災前のみ）
- ・地域内総生産、産業別総生産の構成（震災前のみ）

(地域の写真など)

(グラフなど)

## (2) 課題と施策の展開方向



### 【課題①】産業の振興・再生可能エネルギーの導入促進

- 原子力災害に伴う風評被害により、農産物価格が下落しています。
- 特に若者のニーズに合った就業先が少なく、若年労働者の域外流出が続いている一方、農林業の担い手不足が深刻化しています。
- 中小企業においては、経営の安定化や高度産業人材の育成・確保が求められています。
- 豊富な水資源を背景に、小水力発電など再生可能エネルギーの導入が求められています。



### はじめよう。地域の特性を生かした産業の振興と再生可能エネルギーの導入促進



### 【課題②】観光の振興・交流の促進

- 観光客入込数は、平成22年には過去最高だった前年を下回っていたところ、平成23年には原子力災害による風評被害により大幅な減少となり、未だ十分に回復しない状況です。
- 広域的な交流の拡大を図るため、道路網の一層の整備が求められています。



### はじめよう。地域資源を活用した観光・交流人口の拡大



### 【課題③】安全・安心な暮らしの確保

- 医療や道路網などの地域における生活の基盤整備が求められています。
- 平成23年に発生した新潟・福島豪雨による道路・鉄道・河川・農地などの被害からの早期復旧が求められています。特に災害時に迂回路の確保が困難な地区が多いことが課題となっています。
- 過疎・高齢化の進行に伴い、集落における除雪体制の維持や消防団員の人材確保をはじめ、集落における自助・共助活動が低下しています。



### はじめよう。社会生活基盤の維持・整備による安全・安心な暮らしの確保



### 【課題④】自然環境、歴史的景観等の保全・継承

- 尾瀬や広大なブナ原生林に代表される豊かな森林など、貴重な自然環境の維持・保全が求められています。
- 大内宿や前沢曲家集落等など、日本の原風景ともいべき歴史的景観を後世に継承していくことが求められています。
- 過疎・高齢化の進行に伴い、地域に根ざした伝統文化や伝統芸能が衰退傾向にあります。



### はじめよう。豊かな自然環境や伝統文化など地域の宝の保全・継承

# 6

## 相双地域

### (1) 地域の概要



#### 【地域の特徴】

- ・相双地域は、福島県の東部に位置し、海・山・川の豊かな自然を擁した温暖な気候の地域です。
- ・しかし、東日本大震災により沿岸部を始め地域全体が甚大な被害を受けるとともに、原子力災害による避難区域等の設定により多くの住民が避難を余儀なくされ、多数の町村で地域社会全体に空白が生じるなど、深刻な被害が継続しており、全く先の見通しが立たない状況です。
- ・住民の帰還には、放射性物質による環境汚染からの回復を図るため、除染の取組が最優先で求められています。
- ・商工業は、機械電子工学産業を始めとした幅広い業種の集積が図られていますが、企業の地域内外への移転及び休業・廃業の問題が生じています。
- ・農林水産業では米、畜産、園芸作物が中心となっており、良好な漁場を生かした沿岸漁業も盛んです。原子力災害により産業の継続が困難な状況が続いていますが、漁業では試験操業開始の動きも出ています。
- ・物流機能回復、交流拡大及び防災の観点から、東西軸、南北軸、相馬港等の交通・物流基盤の早期復旧と新たな整備が必要となっています。
- ・原子力に依存しない社会づくりを目指すため、再生可能エネルギーの導入を進めています。

#### ○地勢など

- ・面積
- ・世帯数（震災前後比較）
- ・人口・年齢別人口（震災前後比較）
- ・就業人口、産業別就業人口（震災前のみ）
- ・地域内総生産、産業別総生産の構成（震災前のみ）

(地域の写真など)

(グラフなど)

## (2) 課題と施策の展開方向



### 【課題①】安全と安心の確保／交通基盤・物流基盤の整備

- 東日本大震災により、医療・介護福祉関係の人材が流出しており、その確保と広域連携体制の確立が求められています。
- 放射性物質による環境汚染が深刻な課題となっており、徹底した除染の実施とモニタリングの強化、正確な情報発信が求められています。
- 放射線被ばくに対する健康管理や避難生活の長期化に伴う心のケアが急務となっています。
- 生活安定のため、恒久住宅対策を始めとする居住環境の整備や、雇用の確保等により、避難地域での生活再建を図る必要があります。
- 避難区域見直しの進捗等を踏まえた、地域の治安、防火体制の再構築が急務となっています。
- 交流拡大や物流機能回復、減災の観点から、東西軸（東北中央道・国道114・288号等）・南北軸（常磐道・国道6号・常磐線等）のインフラの早期復旧と新たな整備が求められています。
- 物流の拠点として、相馬港の復旧整備と利活用の促進が求められています。



### はじめよう。安全で安心な生活を支える社会基盤の復旧・整備



### 【課題②】産業の再生と雇用の創出

- 原子力発電所に代わる新たな産業・雇用の創出が課題となっています。
- 地域経済を支えている既存企業への支援強化と、企業立地などによる新たな産業集積が求められています。
- 地域において高い潜在能力を有している、風力・太陽光発電など再生可能エネルギー関連産業の立地が求められています。
- 放射線等に関する産業・研究拠点等の誘致と整備が求められています。



### はじめよう。原子力に依存しない産業の振興



### 【課題③】農林水産業の再生／過疎・中山間地域の再生

- 東日本大震災によって被災した生産基盤の復旧と、事業再開に向けた継続的な支援が求められています。
- 水産業において、放射性物質による汚染への対応や水産加工施設の復旧が課題となっています。
- 営農を再開している地域を始めとして、原子力災害による風評被害の克服が課題となっています。
- 過疎・中山間地域においては、放射性物質による汚染が特に深刻であるため、森林の除染を始め、住宅対策、医療体制の確保など帰還に向けた総合的な環境整備と地域産業の再生が課題となっています。



### はじめよう。地域特性を生かした農林水産業と過疎・中山間地域の再生

1  
2  
3  
4



#### 【課題④】教育環境等の整備／地域活力の再生／相双地域及び他地域との連携強化

- 避難先における児童生徒の教育環境の充実・整備が求められています。
- 被災した児童生徒の就学・通学支援、カウンセリング等の安心して学習できるための支援が必要です。
- 避難指示が解除された区域の学校について、早期再開や今後の在り方の検討が求められています。
- 帰還に向けた動きが進まず、避難している住民の中には若者を中心に帰還を敬遠する動きも見られるなど、地域活力の低下が懸念されています。
- 地域をつなぐコミュニティの維持・再生、伝統文化の継承が課題となっています。
- 復興のシンボル・観光交流の拠点として、Jヴィレッジなどのスポーツ・交流施設等の本来機能を回復、強化する必要があります。
- 避難の長期化への対応など、地域内さらには他地域の市町村との連携強化が求められています。

5  
6  
7  
8  
9  
10  
11



はじめよう 復興に向けた新たな地域づくり・人づくり



# 7

## いわき地域

### (1) 地域の概要



#### 【地域の特徴】

- ・いわき地域は、福島県の南東部に位置し、西は阿武隈高地、東は太平洋に面するとともに、地域を西から東へと貫流する夏井川、鮫川などの河川、さらには国宝「白水阿弥陀堂」など、多彩な自然と歴史・文化を有しているほか、温暖で年間日照時間が長いなど、気候に恵まれた地域でもあります。
- ・港町、炭鉱の町として栄え、産業構造の転換に成功し、製造業を中心とする工業都市への発展を成し遂げました。また、市内各地区において地域づくり活動が活発に展開されています。
- ・情報通信機械関連、化学関連分野を中心に高い工業集積を有しています。農業では、米のほかトマトなどの大規模な施設による園芸作物の生産が盛んであり、水産業においても、東日本大震災以前は東北屈指の水揚げ量を誇っており、早期の回復が期待されます。
- ・高速道路網や鉄道網などの広域交通体系の整備が進むとともに、重要港湾小名浜港が国際バルク戦略港湾に選定されたことにより、広域かつ多様な交流ネットワークの要衝としてさらなる発展が期待されています。

#### ○地勢など

- ・面積
- ・世帯数（震災前後比較）
- ・人口・年齢別人口（震災前後比較）
- ・就業人口、産業別就業人口（震災前のみ）
- ・地域内総生産、産業別総生産の構成（震災前のみ）

（地域の写真など）

（グラフなど）

## 1 (2) 課題と施策の展開方向



### 2 【課題①】安全と安心の確保

- 3 ○ 地震、津波などの大規模災害に強い社会基盤の整備が求められています。
- 4 ○ 放射性物質による環境汚染への対応や、放射線に対する健康不安の解消が求められています。
- 5 ○ 医療・福祉環境が東日本大震災でさらに弱体化しており、提供体制の充実・強化が必要となっています。
- 6 ○ 支えあい等によって安心して暮らせる地域づくりに取り組むNPO、ボランティア、地域コミュニティへの支援が求められています。



### 7 安全で安心な地域社会の形成



### 8 【課題②】産業の再生

- 9 ○ 産業全般にわたって、東日本大震災による直接的な被害に加え、原子力災害に伴う風評被害も被っており、産業の再生・発展及び雇用の確保を図る取組みが求められています。
- 10 ○ 農林水産業は原子力災害による被害が大きく、農林水産物の売上げ減少、地産地消の停滞が生じています。なかでも、沿岸漁業の操業自粛長期化に伴う水産業全体の低迷は、深刻な課題となっています。
- 11 ○ 再生可能エネルギー産業の立地地域として高い潜在能力を有しており、その実現に向けた取組みが求められています。



### 12 産業の再生及び創出、技術力の強化



### 13 【課題③】交流の再生・促進

- 14 ○ 放射線への不安による観光客の減少等、県内外との交流の低迷が生じています。
- 15 ○ 地域資源の魅力を引き出すとともに、効果的な情報発信やさらなる活用が求められています。
- 16 ○ 小名浜港の機能高度化及び港を拠点とする広域的な物流ネットワークの構築を図る必要があります。また、小名浜港周辺地域については、産業・観光交流の拠点として一体的な整備促進が求められています。



### 17 多様で活発な交流の促進



### 18 【課題④】浜通りの復興拠点地域

- 19 ○ 地震、津波によって甚大な被害を受けた地区の復興に向け、継続的な取組みが求められています。
- 20 ○ 浜通りの復興の基盤となる広域交通体系の整備充実や、避難が解消された区域の生活を支援する道路等の整備が求められています。
- 21 ○ 原子力災害による避難者を多数受入れていることから、住居、医療、福祉、教育、行政サービスの提供、心のケア、受入先住民との相互理解の促進等が課題となっています。
- 22 ○ 原子力災害による避難自治体と受入自治体双方への支援が求められています。また、「避難中の拠点」構想については多くの課題があり、継続的な取組みが必要となっています。



### 23 浜通りの復興拠点地域としての整備促進

